

三池闘争 60年シンポジウム in 関西

炭じん爆発と高次脳機能障害●今に続く闘い

◆プログラム◆

- 10:00 開場
 10:20 第1部・映画『ひだるか』上映
 特別ゲスト・港健二郎監督
 主演女優・岡本美沙さん
- 12:30 昼食休憩
 13:30 第2部・『1960三池闘争から60年』講演・報告
 映像『労働者は命まで売っていない』上映
 講演・立山寿幸さん(元三池炭鉱労組書記次長)
 報告・中西徹さん(編集者)
 報告・上原康夫さん(弁護士)
- 15:00 休憩
 15:20 第3部・シンポジウム『炭じん爆発と高次脳機能障害』
 コーディネーター 近藤雄二さん(天理大学)
 パネラー
 東川絹子さん(関西炭鉱と記憶の会)
 伊藤憲一さん(大牟田吉野病院労組書記長)
 山口研一郎さん(医師)
- 17:30 終了

10・17(土)
10:00~17:30

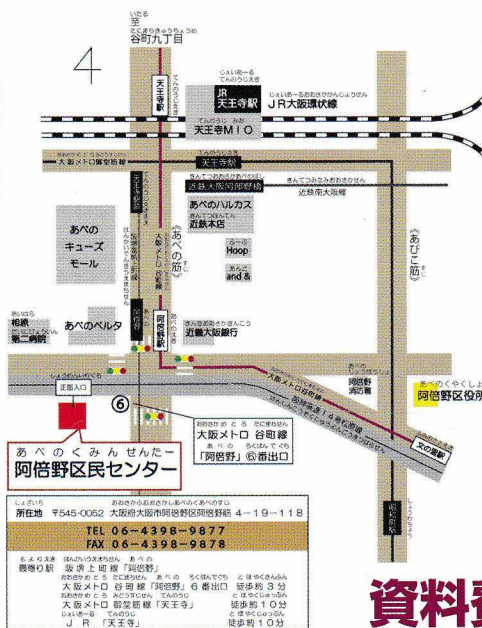
大阪市立
阿倍野区民センター
・小ホール

大阪メトロ谷町線『阿倍野』駅

6番出口から徒歩3分／

JR『天王寺』駅から徒歩10分

新型コロナウイルス感染状況が開催に影響する場合もあり
 会場内の食事もちこみ不可、ふたのある飲料は可



資料費●¥1,000

三池闘争60年シンポジウム in 関西実行委員会

お問い合わせはこちら

080-5309-1536

E-Mail noguchi@my.zaq.jp

三池60

検索

◆三池から現代へ、現代から三池へ◆

今から60年前、石炭から石油へのエネルギー政策の転換がおこなわれました。

1960年、三池炭鉱では普通に働く労働者を「生産阻害者」とし、指名解雇した経営者に対し、「去るも地獄、残るも地獄」として三池闘争が闘われました。

三池闘争は「職場に労働組合を」という働く者が自由に発言できるようにしようという、ささやかで、あたりまえの運動でした。それを経営者は「生産阻害者」の名のもとに首切りを強行したのです。

三池の闘いは、全国の労働者への共感と広がりを持ち、『総資本対総労働』の闘いへと発展したのです。三池闘争が終結するやいなや、経営者は生産第一のすさまじい合理化を強行したのです。本来、労働者の生命を守るべき職場の人員配置を極度に減らし、生産のみに奔走した結果、三川坑炭じん爆発という大惨事をひきおこし、死者458名、脳に障害を起こす一酸化炭素中毒患者839名の犠牲者を出したのです。この患者と家族の闘いは、抗議行動・裁判闘争・厚労省交渉など、今日まで続けられていますが、いまだもって経営者側の誠意ある謝罪は示されていません。

一酸化炭素中毒後遺症については、2005年から隔年で開催されている「三池高次脳機能障害シンポジウム」に結実され、交通事故等による50万人ともいわれる高次脳機能障害問題と直結しています。今回の取組では、この高次脳機能障害の問題を中心に、三池闘争と結びつく労働運動の課題、そして徴用工問題にみられる炭鉱労働との関わり等を提起していきたいと思ひます。

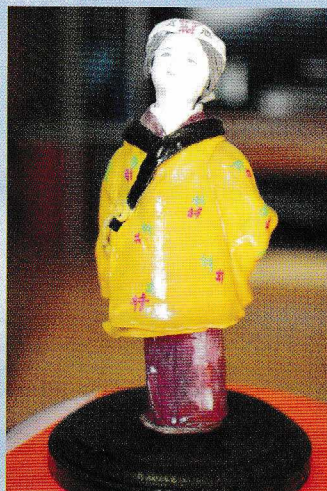
今回の催しが、三池闘争60年目の節目にあたり、人として生きる意味を考え現代から三池に呼びかけるものは何か、三池から現代に呼びかけるものが何なのかを考える機会になればと思ひます。この集会のメイン企画として、現地大牟田の吉野病院(旧大牟田労災病院)労組の伊藤憲一書記長をお招きして一緒に何なのかを考える機会にしていきたいと思ひます。

このシンポジウムの構成が、長い時間多岐にわたりますが、実行委員会一同真摯に取り組んでいきたいと思ひます。皆様のご賛同とご参加をよろしくお願ひします。

映画『ひだるか』

福岡県大牟田市出身の映像作家・港健二郎さんが、故郷の大牟田で体験した「三井三池争議」を題材に撮り上げた人間ドラマ。デジタル化の波が押し寄せる大きなうねりの中、ある女性キャスターの成長を描く。プロデューサー、監督、カメラマン以外は全て福岡、大牟田在住のスタッフでそろえた。

2005年製作 / 113分 / 日本
原題：Hidaruka
配給：映画「ひだるか」製作
上映委員会



三池の主婦の子守唄人形

作者の父は炭塵爆発事故の犠牲者の一人。三池闘争は、こどもを背負いながらのかあちゃん達の闘いでもあった。そんなかあちゃん達の苦勞と誇りが、この人形に込められている。



特別講演

大牟田吉野病院労働組合書記長
伊藤 憲一 さん

三池CO中毒患者のために1964年に設置された大牟田労災病院(当初、大牟田労災療養所)に理学療法士として就職、労災病院縮小・廃止のなかで、2005年に民間委譲され社会保険・大牟田吉野病院となるが、転職・退職せずに、主任理学療法士として、日常CO中毒患者の療養に関わりながら、廃止反対運動から三池高次脳機能センターを目指す運動を国(厚労省)に相手に、患者・家族とともに労組書記長、三池高次脳機能連絡会事務局として闘っています。

三池闘争60年シンポジウム in 関西実行委員会 (略称 三池60 in 関西)

代表 立山寿幸 (元三池炭鉱労組書記次長)

賛同呼びかけ人

上原康夫 (弁護士) / 山口研一郎 (医師) / 近藤雄二 (天理大学) / 北村好弘 (写真家)

大津留求 (伊丹市議) / 中山茂 (フリージャーナリスト) / 向井美香 (大牟田出身) / 中西徹 (編集者)

石川豊子 (西宮日朝研) / 川島恵美子 (アトリエ ガレリア・リバリア) / 三上章道 (僧侶)

栢下忠夫 (歴史の証言者の会) / 谷谷佳代子 (エル・ライブラリー) / 今村稔 (社会主義協会)

岡本美沙 (映画ひだるか主演) / 港健二郎 (映画監督・演出家) / 前川俊行 (異風者からの通信)

東川絹子 (関西炭鉱と記憶の会) / 佐々木康晴 (元タクシードライバー)

次田直子 (大阪・兵庫高次脳機能障害研究会)

敬称略 順不同

連絡先 野口 隆 (事務局 大牟田出身) 080-5309-1536